

7 武蔵野新オペレーションセンター

ICT-24の新たな拠点を新設、BCP向上とオペレーション高度化による事業拡大を目指す

ICTの24時間保守運用サービスを提供するNTTアドバンステクノロジー（以下、NTT-AT）。ICT-24オペレーションセンターの新拠点を設け、本年6月から運用開始した。2拠点化によるBCP向上とオペレーション高度化による業務効率化／事業拡大が狙いだ。

武蔵野市内のデータセンター内に新オペレーションセンターを新設

NTT-ATでは、NTTコミュニケーションズが昨年9月に提供開始した「東京第11DC」内に、ICT-24オペレーションセンターの新たな拠点（以下、新拠点）を新設し、本年6月から運用を開始した。武蔵野市内に位置する東京第11DCはネットワーク接続性、耐災害性、グリーン性能に優れた首都圏最大規模のデータセンターだ。

NWセキュリティマネジメント事業本部長の飯島秀幸取締役は、「新拠点は、みなとみらい地区との2拠点化による災害時等のBCP向上に加え、NTT研究所等との連携を強化して自動化・高度化オペレーション技術を積極的に導入し、業務

の効率化、グループ外ビジネスの拡大を狙い、新設しました」と述べている。

オペレーション高度化施策を展開

NTT-ATでは、ICT-24サービスとして、NOC／SOC、クラウド基盤等を提供している。オペレーション業務を取り巻く今日的課題として、人と場所の制約、パンデミック・災害対応、セキュリティ確保、業務ミスの低減、運用業務のデータ化と活用がある。新拠点ならではの取り組みとして、これらの課題解決を視野にバーチャルオペレーションルーム（VOR）のPoC実施を中心に、将来に向けたオペレーション業務の自動化・高度化に取り組んでいる。

【施策1】遠隔オペレーション

アプリで対象業務を選択すると、瞬時に対象のVORをセキュアなサイバー空間に構築。複数メンバーで同じ画面を共有することで、クロスチェックによるミス低減化を図る。

【施策2】セキュア



NTTアドバンステクノロジー株式会社
取締役

NWセキュリティマネジメント事業本部
本部長 飯島 秀幸氏

オペレーション

偏光グラスによるセキュア画面で、他者から閲覧されにくいオペレーション環境を実現。

【施策3】オペレーション業務のデータ化と活用

クラウドCTIやスマートウォッチ等の最新デバイス、さらにはRPA、AI技術を活用し、オペレーション業務をリアルタイムに記録・データ化することで、全オペレータの対応状況の可視化と業務管理や最適シフトスケジューリングを可能にする。

最後に飯島本部長は、「メルマガやWebinarなどインサイドセールス活動を通して提案活動を行っていますが、ウイズコロナの状況を考えると、VORサービスは事業拡大のキラーサービスになると捉えています。実現に向け取り組みを加速していきます」と抱負を述べている。

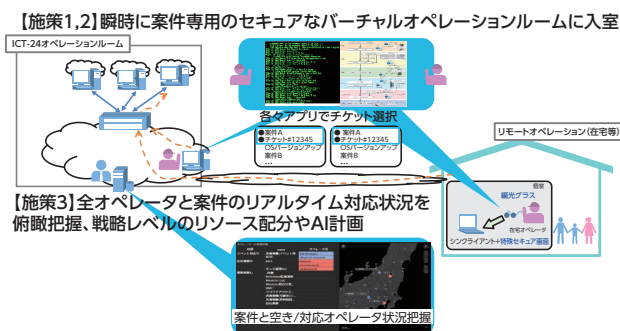


図1 オペレーションの高度化イメージ